

丹波縄文の森塾 活動報告

令和7年5月17日（土） 小雨



名札作り



田植え体験



昼食



里山遊び（集合写真）



丹波の森公苑の里山を舞台に、四季折々の里山の姿や国蝶オオムラサキなどの生き物を観察し、体験学習を行う「丹波縄文の森塾」がはじまりました。今年度の塾生は、丹波篠山市、丹波市の小学生22名（4年生から6年生）。

きょうのプログラムは、名札作り、田植え、里山遊びでした。名札づくりでは、クヌギの木を薄くスライスした木片に、名前と好きな絵などを描いてオリジナルの名札を作りました。

次に、雨が降っているなか、レインコートを着て田植えに挑戦しました。小さな苗を指でつまみ、まっすぐに植えていきました。長靴を履いて田んぼに入っていたので、足をとられて尻もちをついたり、長靴が脱げてしまったりして大変でした。それでも、みんなで協力して、全部植え終えることができました。

昼食は、調理サポーターの方に作っていた牛丼と玉子スープ。とってもおいしくて「家で食べる牛丼よりも、こっちの方が好き」と言っている塾生もありました。玉子スープの味もとても良かったです。

午後は、濱畑指導員（サバ先生）による里山遊び。ジャンケンで連なっていく「ジャンケン列車」や「バナナおに」「積み木自己紹介」や「風船つき」をしました。「バナナおに」は、おににタッチされると両手を頭の上で合わせてバナナの形になって動けなくなるものです。「積み木自己紹介」では、前の人の自己紹介のあとに自分の自己紹介を付け加えていきました。「風船つき」では、名前を言われた人が、風船を打ち上げました。名前を言うのが遅い時は、あわてて打ちにいました。サポーターも一緒になってかなり盛り上がりました。縄文の森塾の初日でしたが、すっかり打ち解けました。次回も楽しみです。

